

SDGs^{しんぶん}新聞

にしんいりようしょくひんかぶしきがいしゃ
日清医療食品株式会社

ロボットもお手伝い？未来のごはんのしくみ

☒ SDGsラジオを^よ読んでみよう！

みなさんが^{おとな}大人になったとき、どんな^{しゃかい}社会になっているでしょうか。

日本はこれから、子どもが少なくお年寄が多い社会になるといわれています。そうなる、ごはんをつくる人が足りなくなつて、お年寄りや入院している人、毎日ごはんをとどけることがむずかしくなるかもしれません。

そこで、ごはんでみんなの健康を支える会社「日清医療食品」では、「お膳の文化」を大切にしたいとごはんとどけられるよう、未来にむけた取り組みを進めています。

たとえ^{すく}ば、^{にんずう}少ない人数でかんたんにつくれる料理を開^{りようり}発^{かいはつ}したり、「ど^{なんじ}んなごはんを、何^た時に食^{いちばんからだ}べたら一番体にいいか」
をかんが^{かんが}えてごはんをつ^{エーアイ}くったり。ほかにAIやロ^{つか}ボットを使^{つか}ってごはんをつくるしくみづ^{すす}くりを進めるなど、

いろいろなことをおこなっています。

よりよい社会^{しゃかい}にしてい^{かんが}くた^{たいせつ}めには、みんなで考えることが大切です。

まずは、どんなものを食べる^た未来^{みらい}が^{はな}いいか？^あ話^{はな}し合^あって^あみま^あしょう。

☒ SDGsラジオの内容を、もっと詳しく知ろう！



がぞうさんしょう しょうしこうれいか
画像参照：少子高齢化のイメージ

にほん いま こ すく としよ ふ しょうしこうれいか すす しゃがい
日本は今、子どもが少なく、お年寄りがどんどん増えていく「少子高齢化が進んだ社会」
びょういん としよ いせつ りょう ひと ふ いっぱう ひと すく
です。病院やお年寄りの施設を利用する人は増える一方で、はたらく人は少なくなってい
くため、ごはんをつくる人が足りなくなり、今までと同じように、毎日きちんとごはんをと
どけることがむずかしくなってしまいます。そこで、ごはんでみんなの健康を支える会社
にっしんいりょうしよくひん しょうしこうれいか しゃがい もんだい たいおう
「日清医療食品」では、少子高齢化をはじめ、さまざまな社会の問題に対応しながら、おい
あんぜん しょくじ つづ じぞくかのう しょくじ みらい む
しくて安全な食事をとけ続けられる「持続可能な食事サービス」をめざして、未来に向けて
あたらし とく すす
新しい取り組みを進めています。



がぞうさんしょう じかんえいようがく と い
画像参照：時間栄養学を取り入れたメニュー
 にっしんりようしよくひんこうしきホームページ
 (日清医療食品公式HPより)

この「持続可能な食事サービス」では、あらかじめ調理したごはんを病院や施設
 にとどけることで、はたらく人が少なくても食事を用意しやすく、食材をむだなく
 使える工夫を取り入れています。また、人の体のリズムに合わせて「いつ・なにを・
 どのように食べるのか」を考える「時間栄養学」を取り入れたメニューで、より
 健康に役立つ食事をつくっています。さらに、少ない人数でも料理のレベルを
 保てるように、調理を手伝うAIやロボットの活用も進めていく必要があります。
 日清医療食品には、日本の「お膳の文化」を未来につぎたいという想いがあり
 ます。ごはん・汁物・おかずがそろった、しっかりとした食事を社会にとどけ続け
 られるように、これからもさまざまな取り組みを行っていきます。

☒ キーワード

しょうしこうれいか 少子高齢化

こ　　か　　へ　　とし　　ふ　　ひと　　た　　もんだい　　お
子どもの数が減り、お年寄りが増えていくことです。はたらく人が足りなくなるなど、さまざまな問題が起きます。

じかんえいようがく
時間栄養学

からだ あ た かんが べんきょう
体のリズムに合わせて、「いつ・なにを・どのように食べるか」を考える勉強です。
えいよう た ふせ けんこう たす
栄養が足りなくなることを防ぎ、健康でいられるための助けになります。

ぜん ぶん か
お膳の文化

にほん むかし いちじゅうさんさい するもの わしよく こころ たいせつ しょうじ
日本に昔からある、「一汁三菜」のようにごはん・汁物・おかずがそろった和食や、おもてなしの心を大切にした食事のことです。
世界文化遺産にもなっています。

☒ たいしょう 対象ゴール

みなさんにできること！

未来の食事はどうなるといいか？考えてみましょう。

●日本では少子高齢化が進み、今まで通りごはんをとどけ続けることがむずかしくなる。

●「日清医療食品」では、おいしくて安全な食事をとどけ続けられるよう、未来に向けた取り組みを進めている。

● 時間栄養学やAI・ロボットを取り入れた食事づくりは、人が少なくてもごはんをしっかりとどけるための工夫になる。

メモ



SDGs ラジオ